

新規検査受託項目のお知らせ

ISO15189:2012
認定取得

2021年9月

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。

この度、下記の項目につきまして、**新規検査の受託を開始いたします**ので、ご利用いただきたくご案内申し上げます。

弊社におきましては皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽を重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほどよろしくお願い申し上げます。

敬白

記

- 新規検査受託期日: 2021年9月10日(金)より新規検査受託開始させていただきます。
- 新規検査受託項目

コード	検査項目	検体量	容器	保存 ¹⁾	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値 ²⁾
3431	TFPI 2	血清 0.3mL	専用 容器	凍結	3~5	190点 144点 (生化Ⅱ)	FEIA	191未満 pg/mL

1) 保存: 採取後 5~6 回静かに転倒混和し、凝固を確認後、速やかに遠心してから、そのまま凍結し提出してください。

2) 基準値: 卵巣明細胞癌の判別カットオフ値 : 270 未満

(備考): 妊婦では、TFPI2が高値となることが確認されています。

※TFPI2(組織因子経路インヒビター-2)は胎盤タンパク質5(PP5)として知られ、特に周産期の胎盤から強く分泌されるセリンプロテアーゼインヒビターです。

卵巣癌に特異的なマーカーとして注目され、明細胞癌において特徴的に分泌されることが明らかになりました。特に、卵巣癌のなかでも明細胞癌で有意に高値を示します。

卵巣明細胞癌は卵巣癌の組織型のなかでも抗癌剤が効きにくく予後不良で、子宮内膜症が発生母地とされています。

代表的な卵巣癌マーカーであるCA125は、卵巣明細胞癌では感度が低く、月経や腹膜炎、子宮内膜症を含む良性腫瘍でも上昇しますが、TFPI2は健常人や良性腫瘍では上昇することの少ないマーカーです。

TFPI2を術前に測定することで、卵巣明細胞癌疑いの推定が可能となり、CA125などの既存の卵巣癌マーカーと組み合わせることで、卵巣癌の診断性能が向上します。

■ お問い合わせ、ご意見、ご指摘、ご要望先

カスタマーセンター

株式会社 大阪血清微生物研究所

本 社 (06) 6322-4531

奈良支社 (0744) 24-0530

田辺支社 (0739) 22-8740

株式会社 大阪細胞病理研究所

(06) 7634-0360